番号	48	金武の六地蔵（左）		
所在地		伊万里市二里町中里甲		
災害別		文政１１年（１８２８年）子年の大風（シーボルト台風）による洪水		
目的別		伝　承	建立年	天正３年３月
特記事項		昭和２３年（１９４８）水害についても記録がある		

伊万里市二里町の金武神社の近くに、文政１１年８月９～１０日（１８２８年９月１７～１８日）の子年の大風、通称シーボルト台風による水害と昭和２３年の水害を伝える六地蔵がある。当時の佐賀領内では、文政１１年の台風により、大雨、暴風、高潮、火災などにより 8 千人から 1 万人以上、当時の人口の２～３パーセントにあたる死者を出す史上最悪の台風被害がもたらされた。また、昭和２３年（１９４８）９月１１日～１２日の大雨でも有田川が氾濫し、多くの家屋の流失や犠牲者を出した。これら大災害の証人である六地蔵は今も地元で大切に祀られている。

「金武六地蔵は、天正３年（１５７５）の建立で、二里町内にある六地蔵では、古い時代のものとなっています。文政１１年（１８２８）の大洪水には、笠石まで河水が来たそうです。それから１２０年後の昭和２３年の洪水でも、同じく笠石までつかりました。この付近は、林内といって昔曲流していた有田川の河道跡の縁に当たることから、金武地区

でも一段低い低地帯となっていることが原因と考えられます。」（引用：二里町誌（平成２５年３月発行　二里町誌編纂委員会）

国土地理院電子国土 Web